



2020年12月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年11月10日

上場会社名 理研コランダム株式会社

上場取引所 東

コード番号 5395 URL <http://www.rikencorundum.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 増田 富美雄

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 石川 和男

TEL 048-596-4411

四半期報告書提出予定日 2020年11月11日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万未満四捨五入)

1. 2020年12月期第3四半期の連結業績(2020年1月1日～2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第3四半期	2,618	19.7	40		91	110.8	98	
2019年12月期第3四半期	3,260	7.5	60		43	78.9	34	81.3

(注) 包括利益 2020年12月期第3四半期 311百万円 (%) 2019年12月期第3四半期 143百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第3四半期	106.53	
2019年12月期第3四半期	36.85	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年12月期第3四半期	5,882	3,867	65.7
2019年12月期	5,990	4,234	70.7

(参考) 自己資本 2020年12月期第3四半期 3,867百万円 2019年12月期 4,234百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期		30.00		30.00	60.00
2020年12月期		30.00			
2020年12月期(予想)				30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年12月期の連結業績予想(2020年1月1日～2020年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,600	16.4	73		44	33.3	173		187.62

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年12月期3Q	922,128 株	2019年12月期	922,128 株
期末自己株式数	2020年12月期3Q	54 株	2019年12月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年12月期3Q	922,079 株	2019年12月期3Q	922,161 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項については[添付資料3ページ]「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあります。このところ持ち直しの動きが見られます。個人消費は一部に足踏みも見られますが持ち直し、設備投資は弱い動き、輸出は持ち直しています。生産は持ち直しの動きが見られますが、企業収益は大幅な減少が続いています。一方で企業の業況判断は厳しさは残るものの改善の動きが見られます。先行きについては、感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを引き上げていくなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直しの動きが続くことが期待されます。ただし、国内外の感染症の動向や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要があります。

このようななか、当社グループの売上については、特に第3四半期連結会計期間以降に新型コロナウイルスの影響を色濃く受け、研磨布紙は全般的に受注が減少、また、得意先の加工工程変更により研磨材のハードディスクの表面加工用の採用が中止になり受注減、7月度よりイオンリテールストア株式会社に賃貸しております理研神谷ビルの解体を開始したことより賃貸収入がゼロとなったことから売上高は2,618,168千円（前年同期比19.7%減）となりました。

また利益面においては、塗装工程の品質の安定化や人件費を中心に費用が減少しましたが、製商品の売上高の減少に加え、2020年7月度からイオンリテールストア株式会社に賃貸しております建物の賃貸収入がゼロとなったことから営業損失39,808千円（前年同期は営業損失60,034千円）となり、経常利益については持分法適用関連会社である中国の合弁会社「淄博理研泰山涂附磨具有限公司」の売上が持ち直し増加、材料費率も低下したことから持分法による投資利益が前年同期より増加し91,067千円（前年同期比110.8%増）となり、特別利益として親会社株式の売却益があったものの、イオンリテールストア株式会社に賃貸しております建物の取壊し費用を特別損失に計上したことから親会社株主に帰属する四半期純損失98,227千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益33,980千円）となりました。

セグメントの概況は、以下のとおりであります。

(研磨布紙等製造販売事業)

当社グループの中核事業である研磨布紙等製造販売事業の当第3四半期連結累計期間の業況は、特に第3四半期連結会計期間以降に新型コロナウイルスの影響を色濃く受け木工加工用、金属加工用および精密加工用製品と全般的に受注が減少、また、得意先の加工工程変更により研磨材のハードディスクの表面加工用の採用中止による受注減から、売上高は2,121,672千円（前年同期比18.5%減）となり、売上高の減少により粗利が減少しましたが、塗装工程の品質の安定化や人件費を中心に費用が減少したことから、営業損失43,223千円（前年同期は88,788千円の営業損失）となりました。

(OA器材部材等製造販売事業)

当社グループにおいて事務機器に組み込まれる紙送り用各種ローラー部品の受注生産をしているOA器材部材等製造販売事業の当第3四半期連結累計期間の業況は、得意先の休業や生産調整により売上高は減少し355,701千円（前年同期比21.6%減）となり、営業利益は売上高の減少による粗利の減少から67,191千円（前年同期比26.5%減）となりました。

(不動産賃貸事業)

2020年7月度よりイオンリテールストア株式会社に賃貸しております理研神谷ビルの解体を開始したことより賃貸収入がゼロとなったことから、その他の賃貸収入を含めた売上高は140,795千円（前年同期比30.1%減）となり、営業利益は理研神谷ビルの賃貸収入減が大きく影響し108,335千円（前年同期比24.7%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ107,704千円減少し、5,881,973千円になりました。これは主に、親会社株式譲渡により現預金が409,110千円増加、親会社株式譲渡に係る仮払い源泉所得税により流動資産のその他が138,014千円増加しましたが、売上高の減少により売上債権が229,286千円減少、親会社株式の譲渡により親会社株式が397,390千円減少したことによるものであります。

負債は前連結会計年度末に比べ259,018千円増加し、2,014,991千円になりました。これは主に、仕入高の減少により支払手形および買掛金が93,509千円減少、賃貸建物の敷金保証金の返却により長期預り金が50,000千円減少、親会社株式の譲渡により繰延税金負債が91,189千円減少しましたが、イオンリテールストア株式会社に賃貸しております建物の取壊しにより、設備支払手形が129,262千円増加、建物解体費用引当金が315,000千円増加したことによるものであります。

純資産は前連結会計年度末に比べ366,722千円減少し、3,866,982千円になりました。これは主に、損失の計上により利益剰余金が153,553千円減少、株価の下落および親会社株式の譲渡によりその他有価証券評価差額金が197,154千円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年12月期の連結業績予想につきましては、2020年8月7日に公表しました予想と変更ございません。今後も情報収集に努め、業績への重大な影響が見込まれる場合には、速やかにお知らせいたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	390,057	799,167
受取手形及び売掛金	※1 986,181	756,895
商品及び製品	346,746	323,023
仕掛品	430,625	572,199
原材料及び貯蔵品	182,312	124,656
その他	15,304	153,319
貸倒引当金	△5,105	△4,373
流動資産合計	2,346,120	2,724,886
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,686,496	3,693,421
減価償却累計額	△2,908,079	△2,932,499
建物及び構築物(純額)	778,417	760,922
機械装置及び運搬具	1,853,892	1,535,518
減価償却累計額	△1,599,005	△1,285,553
機械装置及び運搬具(純額)	254,887	249,965
その他	852,145	780,259
減価償却累計額	△420,441	△373,462
その他(純額)	431,704	406,796
有形固定資産合計	1,465,009	1,417,683
無形固定資産		
投資その他の資産	60,024	51,522
投資有価証券	403,173	336,482
親会社株式	397,390	-
関係会社出資金	1,268,974	1,329,548
退職給付に係る資産	22,605	-
その他	37,232	21,901
貸倒引当金	△10,850	△50
投資その他の資産合計	2,118,525	1,687,882
固定資産合計	3,643,557	3,157,087
資産合計	5,989,677	5,881,973

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※1 737,779	644,270
設備関係支払手形	49,983	179,245
短期借入金	※2 230,000	※2 300,000
1年内返済予定の長期借入金	81,200	73,200
リース債務	10,666	15,651
未払法人税等	3,618	824
賞与引当金	—	10,900
建物解体費用引当金	—	315,000
その他	154,415	95,227
流動負債合計	1,267,661	1,634,317
固定負債		
長期借入金	116,000	139,600
リース債務	34,285	38,150
繰延税金負債	272,775	181,586
退職給付に係る負債	—	6,046
長期預り金	51,952	1,952
資産除去債務	10,000	10,000
その他	3,300	3,340
固定負債合計	488,312	380,674
負債合計	1,755,973	2,014,991
純資産の部		
株主資本		
資本金	500,000	500,000
資本剰余金	89,675	89,675
利益剰余金	3,276,037	3,122,484
自己株式	—	△124
株主資本合計	3,865,712	3,712,035
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	310,955	113,801
繰延ヘッジ損益	509	△618
為替換算調整勘定	56,528	41,764
その他の包括利益累計額合計	367,992	154,947
純資産合計	4,233,704	3,866,982
負債純資産合計	5,989,677	5,881,973

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
売上高	3,260,226	2,618,168
売上原価	2,722,015	2,158,167
売上総利益	538,211	460,001
販売費及び一般管理費	598,245	499,810
営業損失(△)	△60,034	△39,808
営業外収益		
受取配当金	16,260	13,262
持分法による投資利益	80,664	109,042
その他	20,501	24,833
営業外収益合計	117,425	147,137
営業外費用		
支払利息	3,869	3,348
売上割引	7,936	7,291
為替差損	603	3,300
その他	1,780	2,323
営業外費用合計	14,188	16,261
経常利益	43,203	91,067
特別利益		
親会社株式売却益	—	241,973
特別利益合計	—	241,973
特別損失		
建物解体費用引当金繰入額	—	430,000
固定資産除却損	—	3,377
特別損失合計	—	433,377
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	43,203	△100,337
法人税、住民税及び事業税	3,047	2,336
法人税等調整額	6,176	△4,445
法人税等合計	9,223	△2,109
四半期純利益又は四半期純損失(△)	33,980	△98,227
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	33,980	△98,227

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	33,980	△98,227
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△92,274	△197,154
繰延ヘッジ損益	542	△1,128
為替換算調整勘定	△8,510	△2,251
持分法適用会社に対する持分相当額	△76,658	△12,513
その他の包括利益合計	△176,900	△213,045
四半期包括利益	△142,919	△311,272
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△142,919	△311,272
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

①簡便な会計処理

(i) 棚卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基盤として合理的な方法により算定する方法によっております。

(ii) 繰延税金資産及び繰延税負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

②四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	研磨布紙等 製造販売事業	OA器材部材等 製造販売事業	不動産 賃貸事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,604,867	453,803	201,555	3,260,226	-	3,260,226
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	2,604,867	453,803	201,555	3,260,226	-	3,260,226
セグメント利益又は損失(△)	△88,788	91,387	143,844	146,443	△206,478	△60,034

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△206,478千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。
全社費用は、主に連結財務諸表提出会社本社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	研磨布紙等 製造販売事業	OA器材部材等 製造販売事業	不動産 賃貸事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,121,672	355,701	140,795	2,618,168	-	2,618,168
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	2,121,672	355,701	140,795	2,618,168	-	2,618,168
セグメント利益又は損失(△)	△43,223	67,191	108,335	132,303	△172,111	△39,808

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△172,111千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。
全社費用は、主に連結財務諸表提出会社本社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。